

## フロントのお花

アウルにいらしたお客さまを一番最初にお迎えするのが、玄関正面のフラワーアレンジメントです。専属のお花屋さんが、毎週火曜日に活けに来てくださっています。

見たこともないような珍しい花や果実を取り入れる素材の個性的なセレクション。天井まで届く長い葉を使ったり、複数の花器で

構成するなどの斬新なアレンジ。そのモダンな姿は、火曜日に来るたびアウル内にホットな話題を提供してくれています。

華道をたしなまれたご入居者様もうならせるこのお花、実は二人の若い男性スタッフの手から生まれています。毎回心待ちにされている方、活かしているところを見に来る方と、すでに多くのファンをつかんでいます。



ソルボンヌ(ユリ) リューカデンドロン(ひまわり)



あじさい シーラ(ユリ)、ペビーハンズ(木苺)

### スタッフ リレーエッセー

#### 「介護」との出会い

旭川の病院に入院していた祖母に1年間付き添い、食事や排泄介助を看護師さんに教えていただき、実践したのが私と「介護」の最初の出会いです。大変でしたが、祖母の笑顔や喜ぶ姿が私の力となっていました。



介護部主任 中川和子

看病を終え、札幌に戻った私に、偶然にも友人から介護職誘いの話がきたのです。経験といえば祖母の付き添いだけでしたが、働いてみたいと強く思い、飛び込んでみました。それから17年が経ち、今でも介護の難しさを痛感していますが、皆さまの笑顔や喜んでくださる姿が、祖母の時同様、私に力をくれるのです。

時々祖母を思い出して「今の私だったらもっと手際よくお世話できたのに…」と少し悔しく感じながらも、介護の仕事に就くきっかけをつくってくれた祖母に感謝しています。

### 今日のらんこ

かわいいリボンでしょ



アウルコート  
のいやし課長  
キャバリアの  
「らんこ」です

### ことばのトビラ

#### 成年後見制度

認知症などで判断能力の不十分な方を守るために、本人に代わり財産管理をはじめとする法律行為を助ける人(後見人)を法的に定めておく制度です。詳しくは、相談員の澤又までお尋ねください。



●介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)  
**アウルコート真駒内**  
〒005-0016 札幌市南区真駒内南町4丁目5-3  
TEL.011-588-1122 FAX.011-588-1133  
**入居相談受付中 ☎0120-916-768**

- 交通機関
- 地下鉄南北線「真駒内」駅下車
  - じょうてつバス「真駒内駅前」停で真駒内線に乗車(約5分)「南町4丁目」停下車(徒歩約4分)

アウルコート真駒内   <http://www.owlcourt.jp>



# ふくろうの家 だより

その16  
2010年9月

●発行/株式会社私の青い空  
●編集/アウルコート真駒内広報室 〒005-0016 札幌市南区真駒内南町4丁目5-3 ☎011-588-1122



## 敬老の日に思う

代表取締役 武田 治信

9月の敬老の日にあたり、普段ご入居者様とお話するにつけ感じていることを少し書いてみようかと思います。

「アウルコート真駒内」にご入居されている方の平均年齢はおよそ83歳。従って、高齢のため病を得て亡くなられた方もこの3年間で数名を数えます。わが国の高齢化率は近年ますます高くなってまいりました。例えば、100歳以上の人口について言えば、1989年には3,078人だったのが、2008年には36,000人以上となり、20年でほぼ10倍になりました。これは「いったん生まれるとほぼ天寿に近いところまで生きられる」ようになってきたということであって、まさに「人は何のために生きるか」を改めて問われるようになってきたような気がします。

今から20年前の1990年、ご入居の方々が63歳くらいの頃と比較すると、当時もパソコンはありましたがまだワープロ専用機が多く、携帯電話も

存在していません。テレビは場所をとるブラウン管テレビ、今は液晶で非常に薄くなりました。確実に生活のレベルは高水準になりましたが、生活の質、心中の本当の幸せはいかかなものでしょうか。

そうした時代にあって、私たちが想像するだけでは及びもつかぬ時代背景の中、戦前、戦中そして戦後と生き抜かれた先輩諸賢に心から労苦を犒<sup>ねぎら</sup>い、ご長寿をお祝いし、これからの日々をより一層お元気に、人間形成の頂点へ向かっていただきたいと願わずにはおられません。食べることさえままならぬ戦争という辛い時代を生き抜いた方々がいらっしゃったからこそ、今日の日本があることを忘れてはならないと考えております。私もこれから老後に向かう人間として、ご入居されている皆様のように、諧謔<sup>かいぎやく</sup>に富んだお話を身につけ、暮らしの豊かさ、心のたおやかさにつながる生き方を目指したいと思っています。



## 夏の空の下で にぎやかにお祭り

8/7(土)、アウルの夏の恒例行事となった夏祭りが開催されました。館内には射的やヨーヨー釣りなどのゲーム、昼食には焼きそばや焼き鳥、たこ焼き、おでんなどのほか、スイカやラムネも用意され、見慣れたレストランや中庭が、非日常的なお祭りの空間に変身しました。

趣向を凝らした余興もお祭りムードを盛り立てました。職員による二人羽織は爆笑の連続。続いてゲスト出演された橋本流地獄太鼓の皆さんの演奏は迫力満点。小学6年生の女の子から70代の橋本光司代表まで6名の奏者が生み出す和太鼓のエネルギーは、普段は静かなアウル館内で地鳴りのように鳴り響き、観る人に強烈な印象を残しました。



## 迫力の和太鼓 囲んで盆踊りも

最後は太鼓を囲んで盆踊り。生の太鼓が伴奏する北海盆唄に合わせて、車いすの方も一緒にご入居者様とご家族、職員が輪になって踊りました。

「今年のご入居者様に参加していただけるよう企画しました」と夏祭りの企画運営を担当した千葉いづみ実行委員長。食事やゲームも工夫を加えて、一層のお祭りらしさを目指しました。「昔を懐かしみ、喜んでいただけました」と、千葉さんもうれしそうでした。

2年前から始まったアウルの夏祭りは年々参加者が増え、毎年少しずつ規模が大きくなっています。お祭りならではの開放的な雰囲気には、その場に居合わせた人同士を自然と親しくさせる力があります。ご入居者様とご家族、そして職員が相互に交流できる場としても、夏祭りは今後重要な役割を果たしてくれそうです。



# 笑顔が集ったアウルの庭、今年も祭りは大賑わい 和太鼓も登場した夏祭り

## アウルの四季彩々日記

### 講師の先生を招いて 新しい創作活動がスタート

以前からちぎり絵など不定期に実施していた趣味の活動。8月からは新たに外部から工芸家の八城年踏先生を講師に招いて、月2回程度の創作活動を行っています。

初回の8/9(月)には、布の絞り染めとガラスクラッチ画、8/23(月)は茶筒の絵付け、9月は陶芸と、内容はさまざま。参加された方々は、思い思いの創作で自己表現を楽しまれています。



### ●5/28(金)

#### 「アウル御膳」登場

ご入居者様の声を受け、500円プラスでちょっぴり贅沢な特別メニューが味わえる「アウル御膳」が毎月1回夕食に登場。食事に新しい楽しみが増えました。



### ●6/16(水)

#### アウル農園で初収穫

今年最初の収穫物はラディッシュ(二十日蕪)。天候不順で初収穫までの日数はいつものほぼ倍。その後は順調に成長し、多彩な野菜が食卓にのりました。



### ●6/1(火)

#### 好評、「喫茶の日」

近くの喫茶店へ出かけ、おやつやおしゃべりを楽しむ「喫茶の日」がスタート。8/3まで毎週火曜・全10回、いつもと違う空間でリフレッシュしてきました。



### ●7/14(水)

#### 普通救命講座

6/24(木)の消防訓練に引き続き、普通救命講習を実施し、万一の際の対応を習得。AED設置施設として「さっぽろ救急サポーター」の認定も受けました。

